

# 郷土文化財紹介

## 神社・寺院シリーズ

### ＜護国山蔵田寺＞

護国山蔵田寺は、坂下地区に現存する唯一のお寺です。宗派は曹洞宗で大門自治会の皆さんによって維持されています。

古い蔵田寺という名称は、承応年中(1652～1655)頃から現れていたことが「恵那郡史(大正15年刊)」の中に記されますが、詳細はわからず何度かの山崩れや水害により被害を受けてきたという伝承が残るのみです。明治の廃仏毀釈では取り壊されたことと思われます。40数年が経過し寺院再興の機運が高まるなかで、明治42年静岡県的心岳寺(曹洞宗)末寺として静岡県志太郡戸谷村より古寺の材を入手し、現在地に築造されました(恵那郡史)。この再興には、当時の坂下村区長等も力を貸します。廃仏毀釈で廃寺となった萬歳山長昌寺の釈迦如来座像、金龍山三井寺の役行者倚座像は下野村良雪山法界寺に引き取られていましたが、彼らが中心となりこれらの仏像を法界寺より借り受ける形で蔵田寺の持仏とすることができました。(「坂下における寺院調研究」原寛)



↑ 左より開山巨海宗山大和尚像  
役行者倚座像、釈迦如来座像、維魔王座像

さらに長昌寺の所有していた閻魔界十王像の一体である維魔王座像も迎え入れられました。廃仏とは言え各所で信仰されていた仏像を全て焼き捨てたりはできなくて個人の家で秘匿されていたのでしょうか、この折に弘法大師像、33観音像なども迎え入れられ、合郷地区内で信仰されていた石

像物なども寺の庭に並列させて寺院としての形態を整えることができたようです。

(「坂下における寺院研究」原寛)



↑ 三十三観音像の一部、弘法大師像



↑ 石造物群

大正12年の関東大震災の惨状に心を痛めた中津町(中津川市)の方が「恵那新四国88ヶ所」を発願され各地に札所を定めますが、蔵田寺の大日如来が42番札所とされています(「ふるさと探訪」)。

その後も寺の栄枯盛衰があるようです。終戦直後には花祭りに用いられていたお釈迦様の像も盗難に合い檀家衆は大きなショックを受けられます。檀家、信徒はますます少なくなり寺はすっかり荒れ果ててしまっています。

昭和38年文化財資料調査を田原金一氏と共に行った原寛は、障子も破れて寒々とした廃屋に近い建物の中に入り、そこに横たわる釈迦如来像、木枠の倒れかかった中に片足の折損する役行者小角像を見出し寒々しい感じにとらわれました。急ぎ小県次栄先生にも声をかけて見ていただき、大切な仏像であることを確認し合います。翌39年坂下町文化財審議会で検討していただき、まずは町指定重要文化財とすることができました。更に岐阜県に鑑定を依頼する



こととなり坂下へ岐阜県文化財審議委員土屋常義先生、花林和尚を招きました。現物を見た土屋常義先生は、役行者像は「県内屈指の木製大像であり指定は大丈夫」と太鼓判を押されます。こうして岐阜県文化財審議会で審議され蔵田寺の釈迦如来座像、役行者倚座像は、昭和40年9月岐阜県指定の文化財となりました。この時上野東光寺の薬師如来座像も県重要文化財に指定されました。

この指定を記念して坂下製材の丹羽氏が音頭を取られ仏像護持委員会を設立して蔵田寺宝物殿の建設を発願し、蔵田寺も改築され現在の護国山蔵田寺となります。それを機会に蔵田寺は勢いを増し祭りを盛大に行うようになってきました。（「坂下における寺院研究」原寛）



↑ 現在の蔵田寺全景



↑ 岐阜県指定重要文化財標柱と  
仏像護持委員会が設置した説明板



↑ 重要文化財指定を記念して建てられた宝物殿へ文化財を収蔵したことを記した祈念碑